



Racing Specialities

保存版

クァンタム-J QUANTUM-J

取扱説明書

ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用していただくため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。



本書の各図記号は以下のような意味を表しています



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

本製品は日本国内仕様です。国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており、日本国内仕様である本製品は適合していません。

安全のため、守っていただきたいこと！

このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを、心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守る為に努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえども、いかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは万一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよくご理解いただき、常に安全を心がけて運転されますよう、お願いいたします。

▼あご紐は正しく締めてください。

転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から衝撃が来るかもしれません。そんな時、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を正しく締めていなければノーヘル（ヘルメットをかぶっていない状態）と同じです。ヘルメットをかぶる時には必ずあご紐を締めてください。



▼ヘルメットは必ず試着を行ってください。

安全のためには、「自分の頭に合ったサイズのヘルメットをかぶる」ということが大切です。サイズの合っていないヘルメットでは十分な安全性能を発揮することはできません。ヘルメットは同じサイズ表示であっても、モデルによってフィット感が各々異なります、以下の①～③を試着のポイントとしてヘルメットをお選びください。

ポイント①：ヘルメットはモデルが異なるとフィット感も微妙に異なるため、必ず希望するモデルを試着すること。

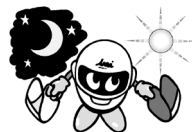
ポイント②：かぶった状態で頭を前後左右にブンブン振っても、頭の動きに対してヘルメットが遅れずに追従すること。

ポイント③：内装素材の改良によって、「少しきつめのサイズを選んでおけば、使っているうちに次第に馴染んで緩くなる！」といった事は、最近ではあまり期待できません。サイズ選びの際にはヘルメットをかぶった際の内装のフィット感が全体的に均一であり、尚且つ頭部に部分的な締め付け（圧迫など）を感じないサイズのヘルメットをお選びください。



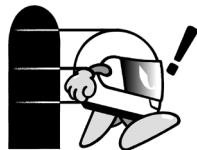
▼走行条件にマッチしたシールド色をお選びください。

周りが暗くなってきたのにも関わらずスモークシールドのままでは走行すると、視界が悪化し状況判断し難くなり危険です。長距離ツーリングなどで夜間も走行する場合は、光線透過率が70%以上のシールド（アライヘルメット純正クリアーシールド、ライトスモークシールド）に交換してください。尚、外したシールドは傷を付けないようにご注意ください。



▼走行中の急激な環境変化に注意する。

走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速度で移動しているため周辺環境（気温、湿度）は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った（出た）瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面（外面か内面かは状況によって変わります）に結露（露付き現象）が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時には、シールドを微開にしておき、予めシールド内外の温度差を少なくしたり、安全を確保できる走行スピードに調節するなどの注意が必要です。



▼ヘルメットを塗装する際の注意。

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの外側を中性洗剤（食器洗い用）で洗い、汚れや油分を落としてから800番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。尚、ヘルメット内の衝撃吸収ライナーは塗料に含まれる溶剤に侵されると、溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしまいますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。ホルダーやダクト等の樹脂成型パーツの塗装は、ポリカーボネイト樹脂対応の塗料をご使用ください。



▼衝撃を受けたヘルメットは使用不可！

ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例えば外観に大きなキズが見られなくても衝撃吸収のために内部構造は壊れています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理課まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かどうか検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。※ヘルメットの検査は無料で行いますが、ヘルメットの送料はお客様のご負担となります。



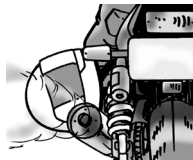
▼走行時のヘルメット操作は危険！

オートバイで走行中、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの操作は停車時に行ってください。但し、シールドの開閉は視界の確保などに必要なもので、この限りではありません。



▼ヘルメットの持ち運びには注意！

ヘルメットホルダーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げるおそれがあります。そして、ヘルメット本体や、車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけるおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げて運転するのもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。



▼ヘルメットの高温乾燥は厳禁！

ヘルメットを50℃以上の熱に曝すと素材に変形や変質が生じ、ヘルメットの性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、または取り外した内装を、業務用乾燥機・ドライヤー・ストーブ・各種ヒーター類・電子レンジ・オーブン・各種バーナー・トーチ類・直火などで絶対に乾かさなideてください。また、衣類乾燥機、洗濯乾燥機による内装の乾燥も、その乾燥温度が50℃以上に達する場合は使用をお止めください。



▼ヘルメットの改造は厳禁！

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界・聴力・運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは高周波のカン高い音がクッション材などによって吸収されることによって音質が変化するため、通常の会話などの周波数音はほとんど吸収されません。このことをご理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり聴力を妨げる原因となります。メーカーに相談せず帽体や発泡スチロールに孔をあけたり、削ったりするのはおやめください。



▼ヘルメットを不安定な場所に置かないで！

オートバイのタンクやシート上など、非平面でツルツルした場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが滑り落ちるおそれがあります。ヘルメットは、中身が空っぽの状態でも1m以下からの落下であれば、性能に大きくは影響しませんが※、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、速やかに新しい部品と交換してください。※1m以下からの落下でも同じ所を連続して落下させた場合、ヘルメットの性能は損なわれます。



▼ペットの近くにヘルメットを置かないで！

ペットを飼っている方や、ペットを飼っているお宅にオートバイで訪問される場合は、ペットの活動範囲内にヘルメットを置かないようにご注意ください。ペットがヘルメットをおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引きずり回したり、ヘルメットを「なわばり」と主張したり、猫が中で寝てたりする場合があります。また、齧歯類の場合には内装生地やウレタンのクッション材を巣作り（寝床）の材料にするために齧り取ったりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットから外れた部品などをペットが誤飲するおそれもありますので十分ご注意ください。



▼ヘルメットをミラーに引っ掛けしないで！

バックミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールド内面が傷付いたり衝撃吸収ライナーが変形するおそれがあり、変形したライナーは衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメット裾部のエッジモールを傷付け、それをきっかけにエッジモールが剥がれたり、割れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。帽体の裾部は硬いので、それを保護しているエッジモールが無いと転倒時に首や肩など身体を傷つけるおそれがあります。



▼ヘルメットの性能は永久不変ではありません！

ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化などの経時変化によって、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。ご使用中のヘルメットに特に異常が見られなくても、SGマーク※の有効期限を目安に、着用開始日から三年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。※財団法人製品安全協会の被害者救済制度



▼長期間ご使用の場合は樹脂成型パーツの点検及び交換を行ってください。

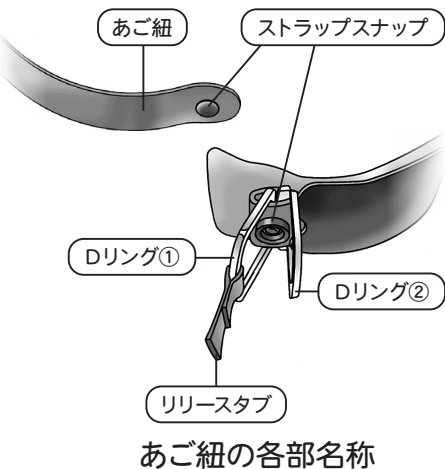
ヘルメットに使用されている樹脂成型パーツ類は、日々の使用による可動部の磨耗や紫外線による素材劣化が生じます。不意の破損を防ぐために定期的な点検を行ってください。特にシールドベースやバイザーを取り付けるためのネジ類、ホルダーやアームなどはとても重要なパーツですので、キズや磨耗、破損を発見した場合は速やかにパーツの交換を行ってください。

▼ヘルメットの製造年月日について。

ヘルメットの製造日はヘルメットの内面に貼られた「検査ラベル」で確認できます。尚、ヘルメットに付属の印刷物（シールドラベルや取扱説明書など）に表示された「年月日」は印刷物の管理用であり、ヘルメットの製造日とは直接関係ありません。

A あご紐の正しい締め方

あご紐を正しく締めていない場合、万一の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願いいたします。



1. 二つのDリングに通す

あご紐を、Dリング①→Dリング②の順に通します。

※あご紐を通す際には、途中で振れさせないようにご注意ください。

2. あご紐を180° 折り返す

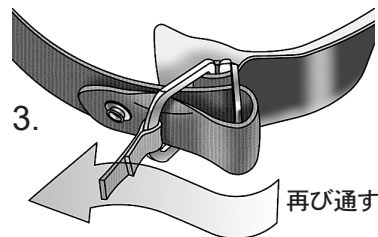
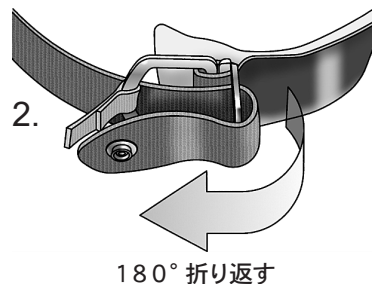
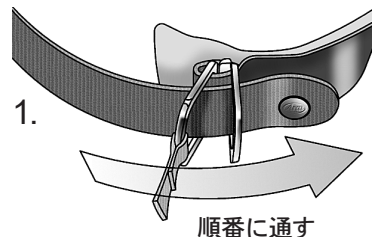
二つのDリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っばって弛みを取り除きながら180° 折り返します。

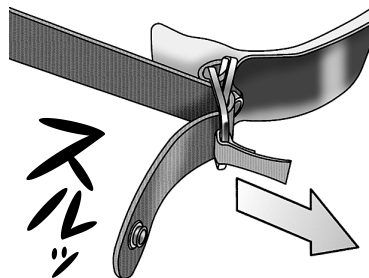
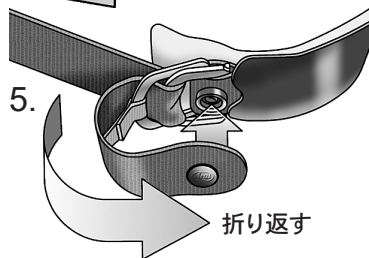
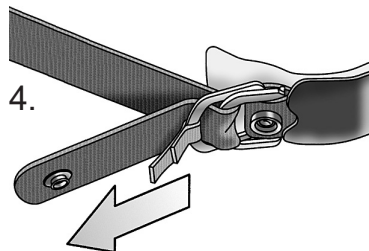
3. Dリング①に再び通す

折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。

危険

あご紐を正しく締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。





4. あご紐を引っばる

あご紐の先端部を持ち矢印の方向に引っばると、あご紐が締まります。

5. 余った先端部を留める

余ったあご紐の先端部をストラップスナップで留めることで、あご紐の風によるバタ付きや、襟元の面ファスナーへの付着を防止できます。

リリースタブの使い方

あご紐先端のストラップスナップを外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っばると、あご紐を簡単に緩めることができます。

あご下とあご紐の間に指を二本差し入れて襟元を直すように左右に動かしても、指の背が常にあごに触れる位が適切な締め具合です。

※人差し指と中指の一番太いところが直径2cm未満の方は指二本で、それ以上の方は、人差し指一本で確認しましょう。



あご紐が乗車服やレインウェアなどの襟元の面ファスナーに付着すると、後方確認の際に首の動きを妨げるおそれがあります。また、あご紐が面ファスナーへ付着すると毛羽立ちの原因になります。



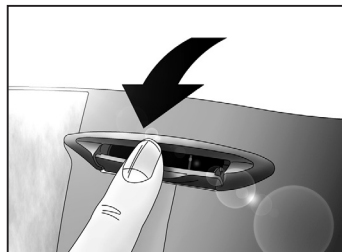
ストラップスナップを留めただけの状態であご紐を持たないでください。ストラップスナップが外れ、ヘルメットが落下して破損させるおそれがあります。



B ブローシャッターの操作

シャッターフィンの中央に指をかけて引き下げると開きます。閉じる時は、シャッターフィンを止まる位置まで押し上げます。

雨の日にはシャッター閉じてください。



C シールドの開閉

シールドを開く

シールドを開くには、シールドロックの解除を行う必要があります。シールドの左下の黒いロックレバーの下に指をかけ、外側に少し広げながら上げると、シールドロックの解除とシールドオープンが同時に行えます。

シールドを閉じる

シールドクローズは、ロックレバー止まる位置まで下ろします。シールドを外側に広げる動作（ロック解除）を行わずにシールドを上げてみて、シールドが開かなければOKです。



シールドロックが不完全な状態で走行すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまい危険です。



ロックの解除の動作を行わずにシールドを無理に開くと、ロックレバーやヘルメット側のデミストロック本体が破損します。

D デミスト機能の使い方

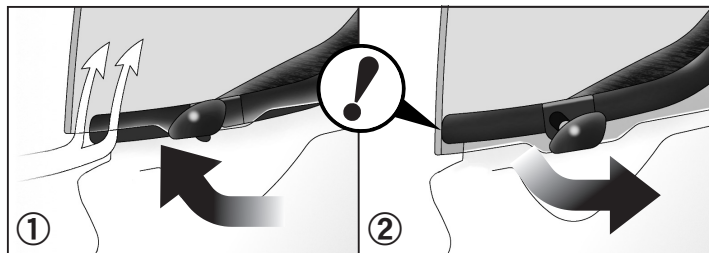
■シールドのロックレバーを動かして、各ポジションを選択します。

①デミストON（シールド微開）

ロックレバーを斜め上方に押し出すと、【デミストポジション】へと移行します。このポジションでは、隙間から入り込む風によってシールドの曇りが軽減されます。

②デミストOFF（シールドロック位置）

ロックレバーを斜め後方に引き下げると、シールドロック位置に戻ります。このポジションでシールドは適切なロック状態となります。



シールドロックの不完全防止のため、シールドをデミストポジションから全閉にする場合には、必ずロックレバーの位置を【デミストOFF】に戻してください。

E マウスシャッターの操作

①シャッター半開（F・F・Sモード）

中央の突起に指をかけて、途中で止まる位置まで引き下げます。このモードでは、口元にこもる空気を流入する外気に乗せてF・F・S排気ポートより排出します。

②シャッター全開（デフロストモード）

途中で止まる位置から更に引き下げると、シャッターが全開になります。このモードでは流入する外気をシールド内面に吹き付けてシールドの曇りを軽減します。



①

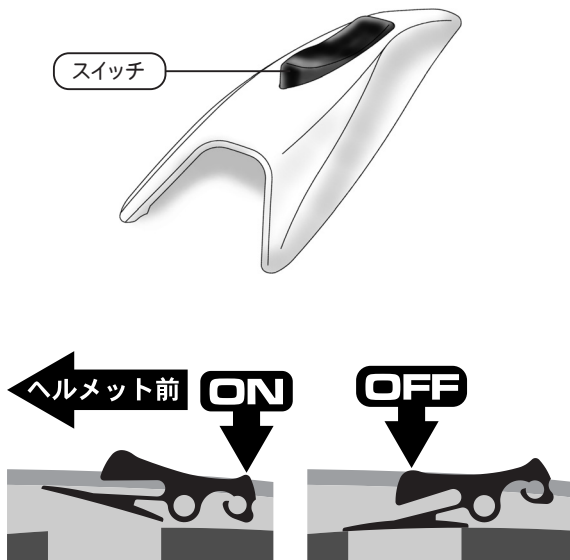


②

F ベンチレーションの操作

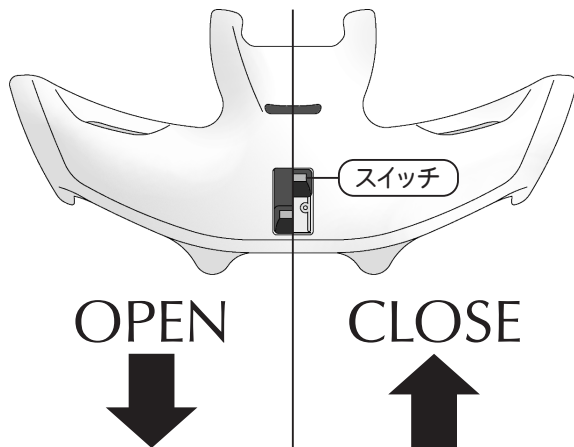
ICダクト3の開閉

上面スイッチの後方を押すとシャッターが開き、スイッチの前方を押すとシャッターは閉じます。



ACR - 2ダクトの開閉

上面のスイッチを、後方にスライドさせるとシャッターが開きます。スイッチを前方にスライドさせるとシャッターは閉じます。



雨の日は、前方のダクトを
閉じてご使用ください。



ベンチレーションダクトについて

▲ベンチレーションダクトは、強力な両面テープや小さな金属製ネジでヘルメットに固定されています。無理に取り外そうとすると破損するおそれがあります。

▲トップケースなどの収納BOXにヘルメットを入れる際、収納時のヘルメットの周りに隙間が確保されている事を必ず確認してください。十分な広さが確保されていない場合、BOXの蓋をボタン！と閉じた瞬間にヘルメットに衝撃や圧力が加わり、ベンチレーションダクトの変形や破損を生じさせるおそれがあります。

▲スクーターなどでシート下にヘルメットの収納スペースが設けられている場合は、収納時のヘルメットの周りに十分な隙間が確保されている事を必ず確認してください。十分な隙間が確保されていない場合、ベンチレーションダクトの変形や破損を生じさせるおそれがあります。尚、ヘルメットを上下逆さまに収納するタイプではヘルメットの重量がベンチレーションダクトにダイレクトに加わるため、長時間の収納によってズレや剥がれが生じるおそれがあります。

▲気温の高い日ヘルメットを長時間収納すると、内部温度の上昇によってベンチレーションダクトを固定する両面テープの接着力が低下して、ズレや剥がれが生じるおそれがあります。また、収納BOXがマフラーに近い場合も内部温度の上昇によって同様のトラブルが生じるおそれがあります。

G ディフレクターの着脱

ディフレクターの外し方

ディフレクターの端をしっかりと掴み、真っ直ぐ引き上げるとディフレクターを外すことができます。



ディフレクターの付け方

ディフレクターの中心とヘルメットの中心を合わせ、窓ゴムとセンターパッドとの隙間にディフレクターのフックを奥までしっかりと差し込んでください。



エアロフラップについて

エアロフラップは固定式で可動しません。フラップを手で掴んだり強く引っばったりするとヘルメットから脱落するおそれがあります。



H シールドの外し方

①シールドを全開にする

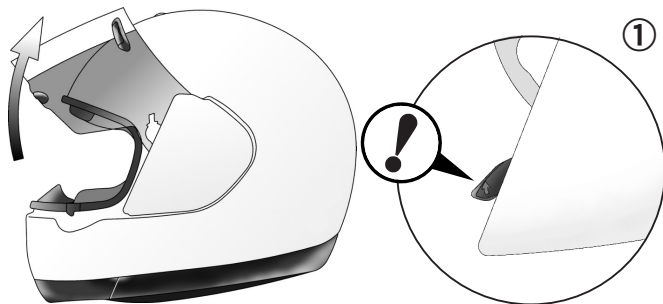
まず、左側からシールドの取り外しを行います。シールドロックを解除してシールドを全開にすると、シールドの動きと連動してホルダー内から【リリースレバー】が現れます。

シールドを全開にしていないと、シールドを取り外すことはできません。



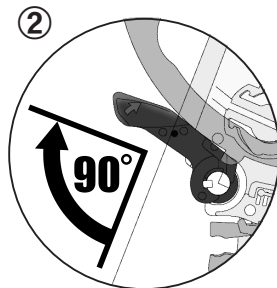
②リリースレバーを操作する

シールドが全開になっているのを確認してリリースレバーの下に指をかけ、レバーに刻印された矢印の方向に引き上げます。ホルダー前方の直線ラインに対して約90度の角度になるまで動かすことでリリースレバーがシールドを押し上げ、シールドベースに設けられた段差（内部ロック）を乗り越えてシールドが取り外せるようになります。

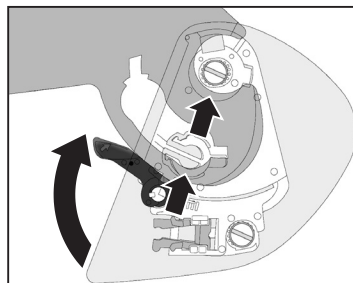


シールドを全開にすると→

リリースレバーが出現！



レバーを上げると→



シールドが段差を乗り越える！

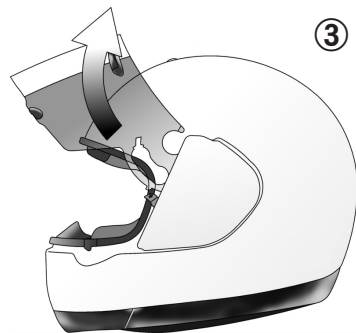


シールド左側を抜き取る際に生じるシールドの撓みにより、反対側のシールドに無理な力が加わるおそれがあります。左側を取り外す時には、右側のリリースレバーは同時に上げないでください。

③シールドを抜き取る

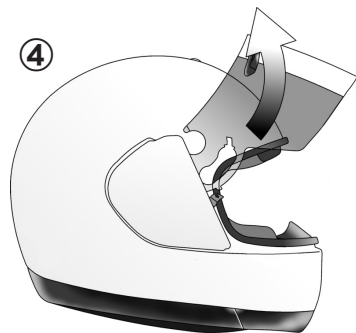
内部ロックの解除が完了したら、シールドを全開位置から更に開くようにして、シールドをホルダー内から抜き取ってください。

ロック解除後、そのままの状態で放置すると、シールドが再ロックされてしまう場合があります。



④右側も同じ手順で

左側の取り外しが完了したら、ヘルメットを持ち替え、右側のリリースレバーを押し上げ、内部ロックの解除を行います。そして左側と同様にシールドを全開位置から更に開くようにしながら、シールドをホルダー内から抜き取ってください。



シールド着脱作業は必ず手が乾いた状態で行ってください。手が濡れた状態で作業を行うと、誤って手を滑らせてヘルメットを落下させたり、思わぬケガを負ってしまうおそれがあります。



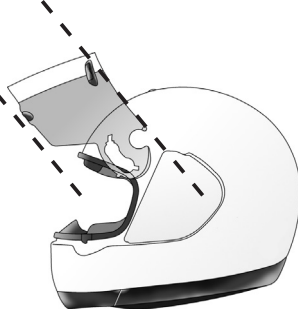
シールドを外す時、内部ロックの解除が不完全な状態で無理にシールドを外そうとすると、ホルダーが外れたりシールドを破損させるおそれがありますのでご注意ください。リリースレバーをホルダー内に収納する際は、必ず下向きに収納してください。

I シールドの付け方

■シールドは片方ずつ取り付けを行います。

①シールドをあてがう

右図を参考に、シールドをシールド全開時と同じ角度でホルダーにあてがいます。



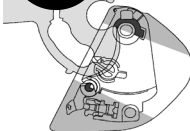
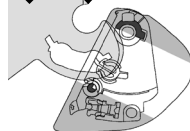
②シールドを差し込む

シールドの角度を変えないように注意しながら、シールドをベースとホルダーとの隙間にシールドを差し込みます。途中、内部ロックの段差で止まりますが、それを乗り越えるように更に差し込みます。そして、カシャッ!とロック音がしたら取り付け完了です。

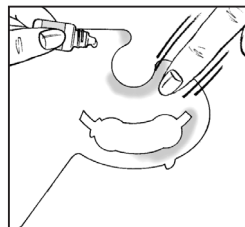


③シールドの動作を確認

シールドを上下させ、シールドの動きが渋くないか、ホルダー及びシールドが外れないか、必ず確認してからヘルメットをご使用ください。



上図の左のようにシールドを差し込む角度が違っていると、シールドベースの構造物によってシールドがブロックされるため、シールドを差し込むことができません。



※シールドが入りづらい時は、ホルダーに差し込む時にシールドを小刻みに上下させながら差し込んでみてください。また、動きがスムーズでない場合は、上図のシールドのグレーの部分に潤滑用シリコンを少量塗布してください。

J ホルダーの着脱

■ホルダーの着脱は、予めシールドを取り外してから行います。

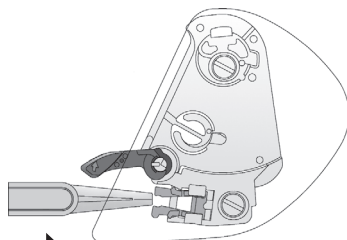
ホルダーの取り外し

まず、リリースレバーを邪魔にならない位置まで上げます。次に、帽体とホルダーとの隙間に見える赤いロックレバーを、割り箸やスプーンの柄などで奥に押し込んでください。ロックが解除されるとホルダーが浮き上がりますので、ホルダーを上方に持ち上げてホルダーを外してください。

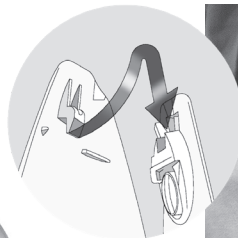
ホルダーの取り付け

ホルダー裏面の上部フックをベース上部の窪みに引っ掛け、ヘルメットの段差(ホルダーを取り囲むライン)とホルダー形状とを合致させます。次に、ホルダー裏に固定フックのある位置(下写真の★印)を、ホルダー上から少し勢いを付けてパチン!と押し込んでください。

パチンと音がしてもロックが不十分な場合があります。ホルダー前方に指をかけ、めくるような力を加えてもホルダーが外れないことを確認してください。



※リリースレバーがホルダー内に隠れている場合は、レバー下に細い棒を差し込んで引き出します。



ホルダーの取り付けが不十分だと、シールドを取り付ける際やヘルメット着用時にホルダーが外れるおそれがあります。

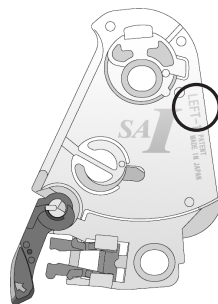
K シールドベースの着脱

シールドベースの取り外し

シールドベースの着脱は、シールドとホルダーを取り外してから行います。シールドベースを止めているネジは左に回すと緩みます。10円硬貨を使って全てのネジを緩めて外してシールドベースを取り外します。

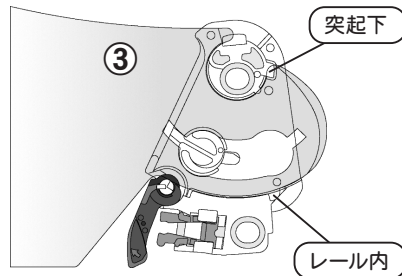
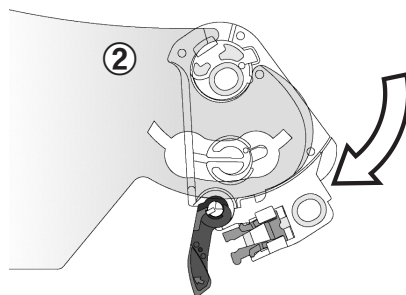
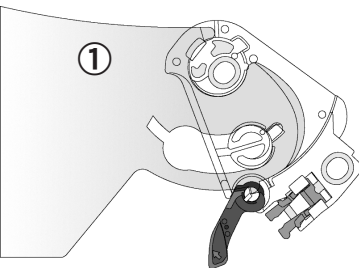
シールドベースの取り付け

シールドベースの刻印で左 (LEFT) 右 (RIGHT) を確認して、下図①のようにベースをシールドの内側からあてがいます。次に、②の矢印の方向にシールドベースを回転させます。シールドベースの回転が終了した時点で、③で示した部分のシールドがシールドベースの突起下とシールドベースのレール内に入っていることを確認してください。



刻印位置

当ヘルメットでは、SAIシールドベースを使用しています。

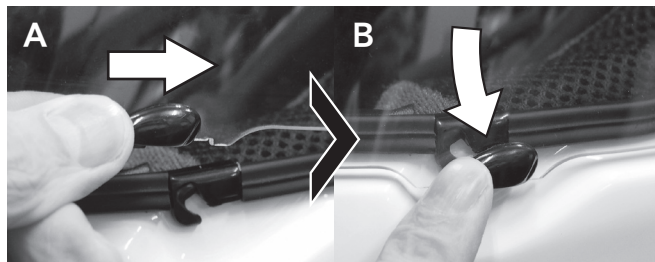


ヘルメットへの取り付け

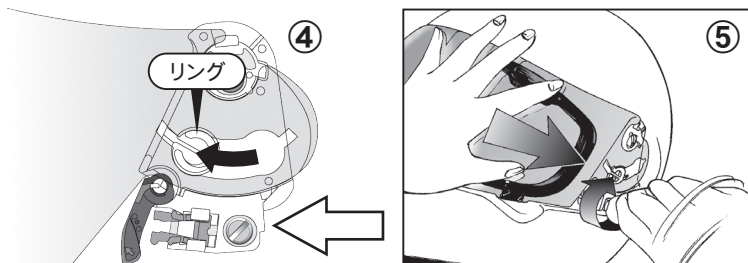
左右のシールドベースが取り付けられたシールドをヘルメットの窓にセットしてシールドベースをネジで取り付けますが、シールドベースが自由に動かせる程度にネジを締めてください。そして、ロックレバー裏面の突起がロックボディの下に正しく掛かっていることを確認してください。

A : ロックレバーが前に移動している場合は、止まる位置まで後退させます。

B : レバーを引き下げ、裏面の突起をロックボディの下に引っかけます。



次に、図④のようにシールドベースの下側を前に押し、シールドの穴の最前部にシールドベースのリングを密着させます。その後、図⑤のようにシールドを手のひらでシールドベース側に押し付けてシールドの内面が窓ゴムに密着するようにしてネジを締めます。この作業を左右に行ってください。



シールドが窓ゴム全周に密着するように、シールドを手のひらでベース側に押し付けながらネジを締めてください。



シールドベースの取り付けが完了したら一旦シールドを取り外します。そして、左右のホルダーを取り付けてから再度シールドを取り付けてください。

尚、シールドベース・ホルダー・シールドの取り付けが不完全な場合、使用中に脱落するおそれがあります。シールドを上下に数回動かして動きが正常かどうか、作動確認を必ず行ってください。



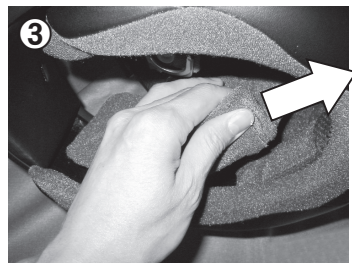
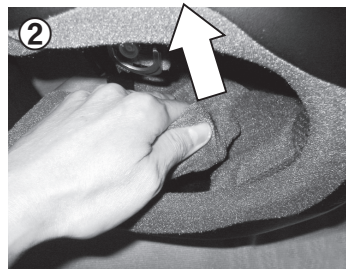
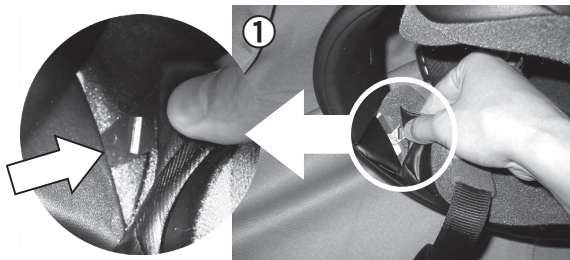
L FCSパッドの着脱

FCSパッドの取り外し

①まず、FCSパッド前方のポケットに差し込まれている【タブ】を抜き取ります。

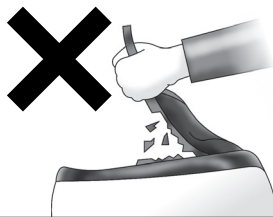
②ネック先端を摘まり、差し込まれているタブを矢印の方向に引き抜きます。FCSパッド後方をしっかりと掴み、真上に向かって持ち上げます。

③FCSパッドの後方が外れたら、斜め後方に抜き取ります。



FCSパッドは、後方を持ち上げて取り外しを行います。従来のシステムパッドとは逆になりますのでご注意ください。

FCSパッドに強い力を加えると、内部の緩衝体（発泡スチロール製）が壊れてしまいますので、取り扱いにはご注意ください。尚、当ヘルメットのネックパッドは固定式で着脱は行えません。ネックパッドを無理に引っばると破損します。



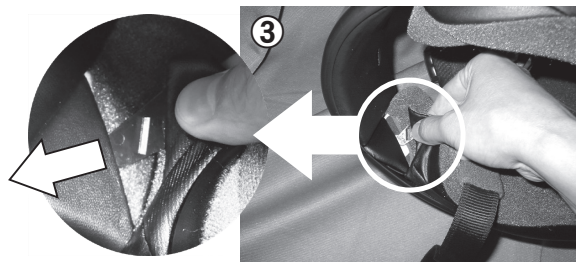
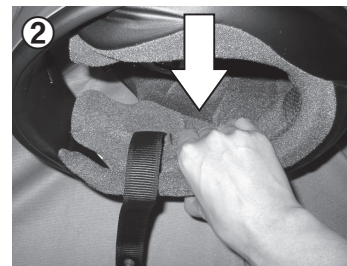
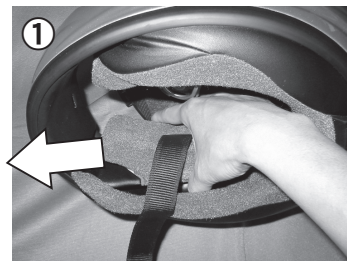
FCSパッドの取り付け

■FCSパッド裏の表示ラベルで左右を確認し、取り付けを行う側のFCSパッドの中央の穴に予めあご紐を通しておきます。

①FCSパッド前方のツメから先にヘルメットにはめ込みます。

②FCSパッド後方をヘルメット側へ押し付けます。

③あご紐を引っばって弛みを取り除き、ネック先端のタブをFCSパッド前方のポケットに差し込みます。



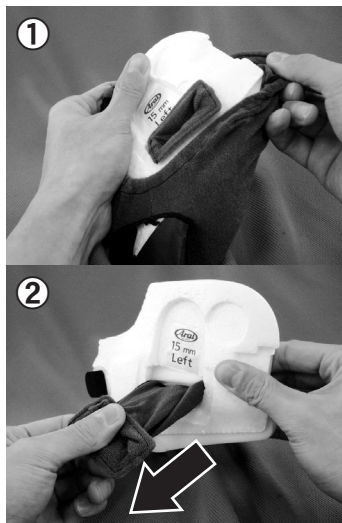
ネック先端部のタブの取り付けが不十分だと、走行中にタブが外れてしまうおそれがあります。FCSパッド中央の穴にあご紐を通さないでFCSパッドを取り付けると、あご紐の機能が損なわれて危険です。また、FCSパッドを付けずにヘルメットを使用するのは危険です。

M パッドカバーの着脱

パッドカバーの取り外し

①のようにパッド後部より先にカバーを外し、カバー全体をパッド本体から外します。次に、パッド裏面のストッパー（あご紐の通る穴の、四角く固い部分）を持ち、②のようにカバーを引き出します。カバーを引き出す際には、パッド本体（発泡スチロール製）を壊さないようにご注意ください。

パッド本体は熱や変形に弱いデリケートな素材で構成されているので、やさしく手洗いしてください。取り外したパッドカバーは、洗濯機で洗うことができます（洗濯ネットの使用を推奨）。



パッドカバーの取り付け準備

■パッド本体とカバーの左右を確認します。

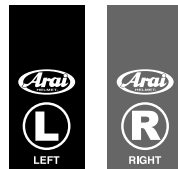
パッド本体とカバーには、左（LEFT）右（RIGHT）の表示ラベルが付けられています。



パッド本体の表示



カバーの表示

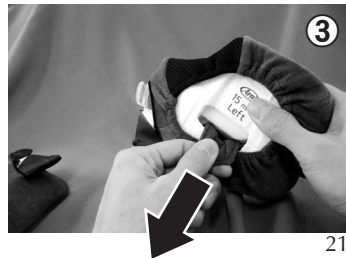
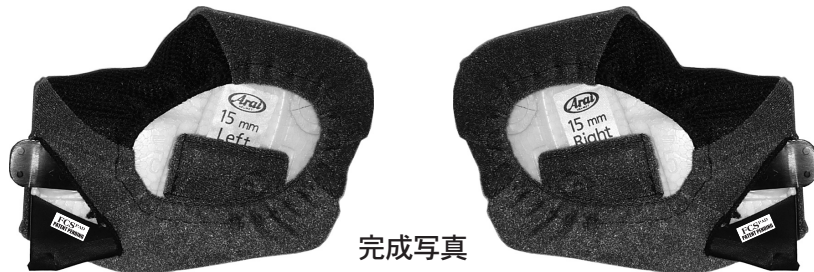
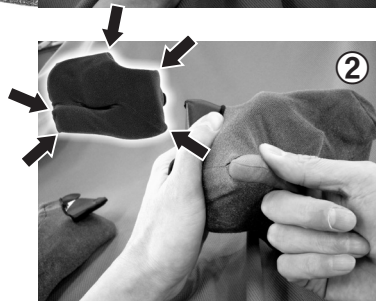


パッドカバーの取り付け

パッド本体とカバーの左右が確認できたら、①のように、前方からカバーをかぶせます。この時、カバー前方の穴からパッド本体のツメと角が出るようにカバー位置の調節を行い、位置が整ったら後方部分にもカバーをかぶせます。



カバーをかぶせた直後は、ウレタンパッドの角がカバーに押されて丸まっています。このままではかぶり心地に影響するので、ウレタンの角を出す作業が必要となります。ウレタンパッドの角を出すには、②のようにパッドの頬にあたる面の中央の穴に指を入れ、矢印で示した部分のパッドカバーを指先でグイッと引っ張り上げます。すると、パッドとウレタンフォームとの間に空間ができ、ウレタンの角が回復します。最後に、③のようにパッドの中央の穴にストッパーを縦向きにして通し、パッド裏面の四角い窪みに収めます。

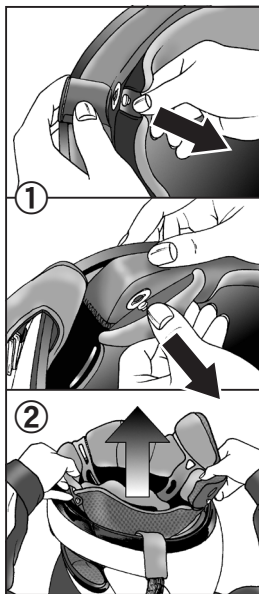


N システム内装の着脱

内装の外し方

①システム内装は四つのスナップで取り付けられています。それぞれのスナップのなるべく近くを持ち、ヘルメットの中心に向けて引っばってスナップを取り外してください。

②システム内装をヘルメットから取り出します。

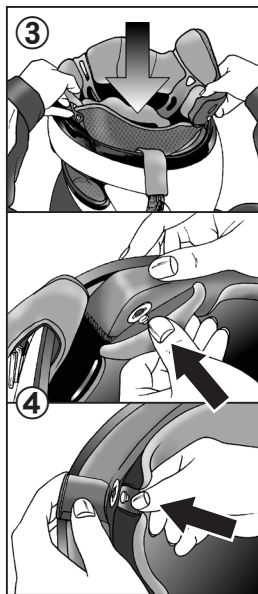


内装の付け方

③内装の前後の向きに注意してヘルメット内に入れます。

④システム内装のそれぞれのスナップ位置を合わせて押し込みます。

取り付け完了後に内装の歪みを整えてください。



ホック及び内装枠の破損防止のため、全てのホックを外してから内装を取り出してください。また、乗車用手袋をヘルメット内に入れると、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋に装備されたプロテクターやエアダクトの突起がヘルメット内を傷める場合がありますのでご注意ください。

○ ヘルメットサイズの調節

■標準設定の内装ではヘルメットがきつい方やゆるい方のため、厚さの異なる内装に替える事で、頭周りと頬部のサイズ調節が行えます。システム内装とFCSパッドの厚さの異なるオプションが用意されていますが、交換される場合には、お持ちのヘルメットの標準設定をご参照のうえ、お選びください。

システム内装による頭回りの調節

【54と55 - 56】、そして【57 - 58と59 - 60未満】には、それぞれ共通の内装枠が使用されています。この事により、右表のような頭周りの微調整が行えます。内装枠サイズはギリシャ数字（Ⅰ～Ⅴ）で表示されています。この枠の数字が異なると、内装を取り付けることができませんのでご注意ください。

ヘルメットサイズ (cm)	内装枠サイズ・パッドの厚み (mm)		
54	Ⅱ-7	Ⅱ-10	
55 - 56		Ⅱ-7	Ⅱ-10
57 - 58	Ⅲ-7	Ⅲ-10	
59 - 60未満		Ⅲ-7	Ⅲ-10
61 - 62未満		Ⅳ-7	
フィット感	ゆるくなる	標準	きつくなる

FCSパッドによる頬部の調節

FCSパッドは内部のウレタンパッドの厚みが異なる以外は全て共通です。基本的に全サイズのヘルメットに、どの厚さのFCSパッドも取り付けることができます。FCSパッドを標準設定よりも極端に厚くしたり薄くしたりすると、ヘルメットのかぶり心地を大きく損なう場合がありますのでご注意ください。

ヘルメットサイズ (cm)	FCSパッドの厚み (mm)		
54	20	25	
55 - 56	15	20	25
57 - 58			
59 - 60未満	12	15	20
61 - 62未満			
フィット感	ゆるくなる	標準	きつくなる

P ヘルメットのお手入れ

パーツ類のお手入れ（中性タイプの台所用洗剤をご使用ください）

ホルダーなどのパーツ類は、洗剤を適量の水で薄め柔らかい布にふくませてパーツ表面の汚れを拭き取ってください。



お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。



シールドのお手入れ（中性タイプの台所用洗剤をご使用ください）

シールド表面にオイルやワックス、ガソリンなどが付着すると、目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは、薄めた中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で充分に濯いしてから柔らかい布で水分を拭き取ります。



シールド素材は耐衝撃性に優れたものですが、アルコールを含むクリーナーやシンナー系溶剤、ガソリンなどが付着した場合や、車窓用の撥水剤などを使用した場合、素材が侵されシールドにヒビ割れが発生し、万一の衝撃時に破損するおそれがあります。



シールドに虫などが付着して硬くなってしまっている場合は、シールドを真水に浸けて柔らかくしてから、薄めた中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で拭き取ってください。尚、中性洗剤を薄めた液中にシールドを長時間浸け込むのは絶対にお止めください。



ヘルメット本体の洗ひ方（中性タイプの台所用洗剤をご使用ください）

ヘルメット本体を丸洗いする時はヘルメットからシールドや着脱式内装、ドレンキャップを取り外してヘルメット全体を中性洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメット表面、あご紐、内装のメッシュを洗い、その後真水で十分に濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所にヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。



ヘルメットを乾燥させる際、50℃以上加熱したりヘルメットを長時間日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナーが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしまいますのでご注意ください。

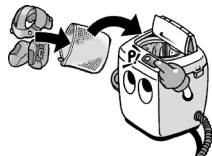


内装のお手入れ（中性タイプの洗濯用洗剤をご使用ください）

システム内装とFCSパッドのカバーをヘルメットから取り外して手洗いを行いますが、システム内装は内装の枠を折り曲げたり変形させないようにやさしく洗ってください。そして、洗い終わったら水でよく濯いで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。



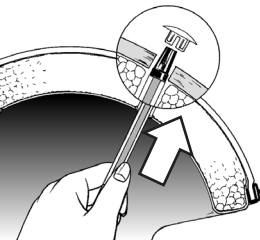
内装を洗濯機で洗う際は、必ず【お洗濯ネット】に入れ、ソフト・弱・手洗いなどの素材に負担をかけないモード選択を行なってください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が50℃以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。



※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

ドレンキャップの外し方

衝撃吸収ライナーの天井部には、ドレンキャップへと通じる穴があいています。その穴にボールペンの柄などを差し込み、ドレンキャップを徐々に押し出してください。外したドレンキャップは無くさないようご注意ください。



Q オプションパーツリスト

パーツ名		部品 番号	
SAI MAX-Vブローシールド(クリアー)		1151	
SAIブロー ピンロックシート	クリアー	1155	
	ライトスモーク	1156	
	イエロー	1157	
スーパーアドシス Iシールド	クリアー	1101	
	スモーク	1102	
	ライトスモーク	1103	
スーパーアドシスI ポスト付シールド	クリアー	1111	
	スモーク	1112	
スーパーアドシスI用ティアオフシールド		1387	
スーパーアドシスI WLレンズシールド	クリアー	1121	
	セミスモーク	1122	
スーパーアドシスI ミラーシールド	ライト スモーク	ミラーシルバー	1170
		ミラーレッド	1171
		ミラーブルー	1172
		ミラーグリーン	1173
	セミ スモーク	ミラーシルバー	1175
		ミラーレッド	1176
		ミラーブルー	1177
		ミラーグリーン	1178

パーツ名		部品 番号
スーパーアドシス Jホルダー	PFガラスホワイ	3526
	PFガラスブラック	3527
	フラットブラック	3731
	レオングレー	4696
	モデナレッド	5132
ICダクト3	PFガラスホワイ	4923
	PFガラスブラック	4924
	フラットブラック	4925
	レオングレー	4926
	モデナレッド	4927
QJ FCS/パッド	12mm	4361
	15mm	4362
	20mm	4363
	25mm	4364
QJシステム内装	Ⅱ-10mm	5581
	Ⅱ-7mm	5582
	Ⅲ-10mm	5585
	Ⅲ-7mm	5586
	Ⅳ-7mm	5589
IPディフレクター		2391
スーパーアドシスIシールドベース		2258
スーパーアドシス ネジセット		2511

付録①：シールドカラーの選び方



晴天

晴れの日、陽射しや路面の照返しの影響を軽減するスモークシールドがお勧めです。

※スモークシールドは、周辺が十分に明るい時間帯に限りご使用ください。



曇り・雨

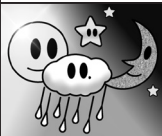
曇りや雨天の走行には、クリアーシールドがお勧めです。

※アルコール成分を含む撥水剤（自動車窓用）はシールド素材を侵し、破損させるおそれがありますので絶対に塗らないでください。



夕方・夜

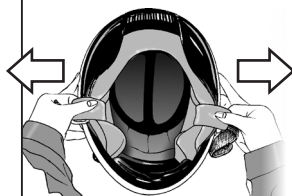
夕方や夜にはクリアーシールドをお勧めします。ツーリングなどで走行が夜間にも及ぶ場合は、日没前に安全な場所で停車して、昼用シールドからクリアーシールドに交換してください。



全天候

朝→昼→夜、晴れ→曇り→雨と、走行条件が日々刻々と変化する通勤通学、配達業のライダーには、ライトスモークシールド・セミスモークシールドがお勧めです。

付録②：ヘルメットのかぶり方

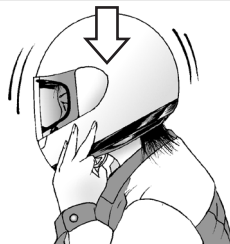


あご紐をしっかり持ち、左右に広げます。するとヘルメットの間口が少し広がり、ヘルメットがかぶりやすくなります。

※ヘルメットを脱ぐときも同様に、あご紐を左右に広げると脱ぎやすくなります。



ヘルメットは真上からではなく、額から先にかぶります。こうすることで前髪が目の前に垂れ下がりにくなり、同時に耳たぶの折れも防げます。



天井パッドが頭に触れるまであご紐を下に引っ張り、ヘルメットの位置を整えます。最後に、あご紐を締めればヘルメットの装着完了です。



株式会社アライヘルメット

〒330-0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12 TEL048-641-3825

ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理課まで。

TEL048-645-3661

受付時間9:00~17:00(土、日、祝日を除く)